

第32期 事業報告書

自 平成30年4月1日

至 平成31年3月31日

1 総括

当事業年度は、黒字化を目標に全ての部門で粗利益率向上を目指しましたが、大きく売上を伸ばせたのは、部門別では「人工河川」のみとなりました。「レストラン・物産」、「宿泊」については、売上は若干減少する結果となりました。

その他の事業につきまして、昨年より養父市の委託事業として取り組んでいた「養父市版 DMO 推進事業」は、ホームページの作成や周遊観光促進 WEB ツール（おおやホッピングスタンプ）を実施し、大屋地域の観光動向調査を行いました。その結果、大屋地域の狙うべきターゲットやニーズなどが明確化することができました。今後の弊社の経営戦略としても十分活用していく所存でございます。

また、今年度より大屋地域の観光事業者等で「大屋地域活性化協議会」（事務局：㈱おおや振興公社）を組織し、国から農山漁村振興交付金（農泊推進対策）を受け、農泊推進事業に取り組みました。弊社では、今後の外国人旅行者の誘客を検討する中で5社連携地方創生協議会（株式会社 NTT ドコモ・株式会社 JTB・凸版印刷株式会社・ヤマト運輸株式会社・リコージャパン株式会社）と共同で外国人モニターツアーの実施を行いました。1泊2日で大屋地域内のレストランみずばしょう（昼食）・おおやスキー場（体験）・ペンション翡翠（夕食）・古民家風コテージ（宿泊）・明延鉱山（体験）・かいこの里（体験・昼食）を巡り、外国人モニターからも大屋地域の風景、食、体験に高い満足を感じて頂けました。今後、実際にインバウンドを進めていくには、現地での受入体制を整える事と、既に大屋地域のモノが商品として満足度は高いのでより磨き上げていく事が必要といった調査結果となりました。

弊社としても今後も大屋地域の観光振興を進め、地域自体が継続・発展していく姿を創造し続けて参ります。

株主の皆様には、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2 個別事業

（1）人工河川

2年前から、オペレーション、人員体制等の見直しを実施してきたなかで、川の家は十分に商品として魅力があります。そこで当期はWEB上での広告宣伝に力を入れ、多くの方に知ってもらえるように努めました。結果としては過去最高の来場者47,985人（対前年度比13,491人増）となり、売上も20,336千円と4,233千円の増となりました。

(2) レストラン・物産

レストラン・物産の売上は10,551千円で、昨年度よりも321千円減少しました。売り上げのほとんどは、土日、GW、夏休み、木彫フォークアートおおやの期間に集中しており、平日や特に冬期間は集客が伸びていません。レストランの大きな課題としては強みのあるここにしかない商品を開発が出来ていない事だと考えています。

(3) 宿泊（ペンション、コテージ）

ペンション、コテージの売上は、15,084千円で、昨年度よりも386千円減少しました。ペンションはツインルームからトリプルルームを増やし、廊下に共同の冷蔵庫を設置しましたが、現状の客室の満足度をあげるのは難しい状況で集客にも繋がっていません。コテージは比較的稼働はしています。両施設ともレストラン同様に強みを作っていく事が必要と感じております。

部門別の売上の対前年度比較

税抜き（円）

部 門	第32期（H30年度）	第31期（H29年度）	増減	前年度比
人工河川	20,336,524	16,103,237	4,233,287	126%
レストラン・物産	10,551,593	10,873,534	△321,941	97%
宿泊	15,084,669	15,471,059	△386,390	98%
総合計	45,972,786	42,447,830	3,524,956	108%

(4) 全体施策

- ①WEB 広告等を活用し、来場者数を上げる施策をおこないました。その結果、公園全体の来場者は、62,664人で昨年度よりも15,144人増加（132%）となりました。
- ②既存の電気料金を見直し、電気料金が下がるものはリコージャパン株式会社、株式会社 Loop に契約を変更し、料金が変わらないものは関西電力との契約を継続しています。
- ③今後に関わる設備投資や施設改修計画を策定し、緊急を要する設備投資や修繕等を実施しました。

(5) その他事業

①養父市版 DMO 推進事業

昨年からの継続事業として、今期はWEB ツールを使い大屋地域に訪れたお客様を一カ所で帰すのではなく、複数箇所に行ってもらおう。またその実数を把握し、今後の大屋地域全体の観光を創造し、大屋地域の関係各所との連携を深める取り組みを

しました。具体的には大屋町内の観光事業者等を対象に観光動態のアンケート調査等を実施し、以下のような調査結果を得ることができました。

☆ 大屋地域が狙うべきターゲット

「大阪府・兵庫県」に在住する「30歳～49歳（主にファミリー層）」です。

（アンケート結果、HPアクセス解析より）

☆ 大屋地域の顧客のニーズと現状

キーワードは「自然」、「のんびり」、「子どもを楽しませる」

大屋地域に再訪を希望する声は多く、満足度は高く1番の理由は自然を楽しめることでした。しかしながら、周遊観光促進ツールの結果からは大屋地域の認知度はまだまだ低いという事がわかり、強みを作ればまだ伸び幅は大きい事が考えられます。

（周遊観光促進ツール、アンケート結果より）

② 自家用有旅客運送償事業

特定非営利活動法人養父市マイカー運送ネットワーク（やぶくる）に会社として参画しました。実績は運行数 29 件で主に診療所や買い物での利用が多かったです。利用者された方は、高齢者の方がほとんどで、普段の生活での域内移動に困っており、この制度に大変喜んで頂きました。

③ 農泊推進事業

今後の外国人観光客の受入に向けての調査として、平成 31 年 2 月に外国人留学生を招いたモニターツアーを実施しました。その結果、大屋地域では、食や体験に関心や魅力があることが判明し、受入体制を整備すれば十分満足してもらえる要素が多い事がわかりました。

3 設備等の投資と修繕

(千円)

部 門	区 分	内 容	投資	修繕
人工河川	公衆トイレ	ログトイレ修理		20
	川の家	ガス漏れ修理		16
		井戸ポンプ修理		180
レストラン・物販	レストラン	送迎用車両購入 (ハイエース)	1,550	
		軽箱バン車検		102
		トイレ換気扇修理		40
		送迎用車両車検 (ハイエース)		130
		LED 照明一部取り換え		14
		倉庫照明設置		21
	物産	ドリームクッカー修理		142
宿 泊	宿泊	送迎用車両車検 (セレナ)		105
	ペンション	冷凍冷蔵庫修理		34
		男子浴室換気扇修理		41
		漏電修理		180
		エアコン修理		140
	コテージ	給湯器交換		110
		自動火災報知設備設置(6棟)	750	
管 理	棚田	棚田水路修理		42
	事務	電話機修理、子機増設		60
	施設	スノープラウ修理		12
合 計			2,300	1,389
総 合 計				3,689

貸借対照表

(単位：円)

株式会社 おおや振興公社

平成31年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 39,994,140】	【流動負債】	【 2,195,947】
現金及び預金	35,094,138	買掛金	351,000
売掛金	285,160	未払金	676,788
商 品	1,755,477	未払消費税等	875,700
商 品 券	3,600	預 り 金	107,459
貯 蔵 品	1,156,775	未払法人税等	185,000
未 収 入 金	1,698,990	負債の部計	2,195,947
【固定資産】	【 6,812,766】		
(有形固定資産)	(6,534,336)		
建物附属設備	1,460,189		
構 築 物	106,367		
車 両 運 搬 具	1,326,150		
工具器具備品	3,008,708		
一括償却資産	632,922		
(無形固定資産)	(105,760)		
電話加入権	105,760		
(投資その他の資産)	(172,670)		
出 資 金	30,000		
保 証 金	114,000		
預 託 金	28,670		
		純資産の部	
		【株主資本】	【 44,610,959】
		[資 本 金]	[57,000,000]
		[利益剰余金]	[Δ12,389,041]
		(その他利益剰余金)	(Δ12,389,041)
		経営安定化積立	2,500,000
		繰越利益剰余金	Δ14,889,041
		(うち当期純損失)	(4,044,475)
		純資産の部計	44,610,959
資産の部計	46,806,906	負債・純資産の部計	46,806,906

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 平成30年 4月 1日

株式会社 おおや振興公社

至 平成31年 3月31日

科 目	金 額	
【売 上 高】		
売 上 高	45,972,786	
受 託 収 入	6,873,778	52,846,564
【売 上 原 価】		
期首商品棚卸高	1,644,506	
仕 入 高	13,779,095	
合 計	15,423,601	
期末商品棚卸高	1,755,477	13,668,124
売 上 総 利 益		39,178,440
【販売費及び一般管理費】		44,254,387
営 業 損 失		5,075,947
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	1,079	
受 取 配 当 金	1,800	
雑 収 入	1,213,593	1,216,472
経 常 損 失		3,859,475
税引前当期純損失		3,859,475
法人税住民税事業税額		185,000
当 期 純 損 失		4,044,475

個別注記表

株式会社 おおや振興公社

自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

- 有価証券の評価基準及び評価方法
 - 有価証券……総平均法による原価法
- 棚卸資産の評価基準及び評価方法
 - 原材料・仕掛品・製品……最終仕入原価法による原価法
 - 商品・貯蔵品……最終仕入原価法による原価法
- 固定資産の減価償却の方法
 - 税法に規定する償却期間で償却している。
- 引当金の計上基準
 - 貸倒引当金
 - 債権の貸倒損失に備えるために、過去の貸倒実績率による繰入率によるほか、債権の内容を検討して計上している。
- 消費税の会計処理
 - 税抜方式で計上している。
- 収益及び費用の計上基準
 - 収益については実現主義により、費用については発生主義により計上している。
 - 中小企業会計に関する基本要領

2. 貸借対照表に関する注記

- 資産に係る減価償却累計額を直接控除した額 6,124,345 円
- 保証債務、手形遡求債務、重要な係争事件に係る損害賠償義務その他債務の注記
 - 受取手形割引高 0 円
 - 受取手形裏書譲渡高 0 円

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

- 当事業年度末日における発行済株式の数 1140株
- 当事業年度末日における自己株式の数 0株
- 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項
 - 剰余金の配当のうち、剰余金の配当を受ける者を定めるための法第124条第1項に規定する基準日が当事業年度中のものを含む。)第31期事業年度の定時株主総会
- 配当に関する事項
 - 配当財産が金銭の場合
 - 金銭配当の株式の種類別内訳
 - 配当金の総額
 - 1株当たり配当額 0円
 - 基準日 平成30年 3月31日

4. 1株当たり情報に関する注記

- 純資産額 39,132円42銭
- 当期純利益 -3,547円78銭